

第2回滋賀県総合教育会議の結果について

会議次第

平成28年6月29日（水）
15:00～17:00
県庁北新館5-B会議室

高大接続改革を見据えた本県の教育の在り方について

【ゲスト】

- 滋賀県立彦根東高等学校長 青木 靖夫 氏
- 滋賀県立大学教育・学生支援担当理事兼副学長 倉茂 好匡 氏
- 文部科学省初等中等教育局高校教育改革PTリーダー 今井 裕一 氏



主な意見等

事務局から本県の「学びの变革」推進プロジェクト事業の説明後、彦根東高等学校長から「学びの变革」の実践事例、滋賀県立大学教育・学生支援担当理事兼副学長から県立大学のアクティブ・ラーニングの取組等について、文部科学省初等中等教育局高校教育改革PTリーダーから高大接続改革の動向と今後の展開について発表してもらい、意見交換を行いました。

- 高大接続改革は、高校教育改革と大学教育改革、大学入学者選抜改革を一体的に進めていくものであるが、滋賀県の「学びの变革」推進プロジェクトは、文部科学省が進めている高大接続改革の大きな方向性を先取りされているところもある。
- 高校、大学での取組が、最後は社会との接続の中で生かされる。産業界ではイノベーションをしていかないとはいけなく言われているが、新しい職業にうまく今の教育がフィットしてくれれば、日本あるいは世界は心配することなく動いていくと思う。
- 思考力、判断力、表現力、あるいは主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる教育への転換が進められているのは、将来の見通しが立てにくい時代の中で子どもたちに自分の頭で考えて生きていける力を付けさせる必要があるから。
- 「学びの变革」を進めるにあたって、一人ひとりの教員が自らの授業観を見直し、再構築していくことが重要だが、なかなか難しい。また、現場としては知識伝達型の授業からの脱却が必要なことは理解しているが、一方で大学受験に向けた指導を行わなければならないジレンマもある。
- 教育改革を進めるためには、教員の資質能力の改善を行うことが大事。
- アクティブ・ラーニングは授業、学びに対して、自分から能動的に取り組むこと。大学では正解のない問いが多い。いろいろな課題にぶつかり、悩みながら、何かしらの答えを見つけるという作業をすることになる。
- 基礎的なこと、基本的なことから大学でやっているのが現状。この部分を高校から大学への接続の中で何とかできれば、大学では後の人生で必要なタフな力の養成というものにもいける気がする。
- 新しいテストの導入によって、かえってテストで点数を取ることに学校や生徒が汲々としてしまうのではないかと。それよりも専門高校には専門高校らしい教育を充実させたり、それに対する支援を行う方が子どもの将来に役立つのではないかと。
- 社会人の学びなおしの場として大学・大学院を使ったり、産業界や地域社会が高等教育に何を求めているのかを、大学側がしっかりと把握することが大事。

